

2020年度（2020年5月1日～2021年4月30日）事業報告書

特定非営利活動法人 CFF ジャパン

1 概況

2020年度は世界中が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、社会全体が一変した1年であったが、海外でのボランティアプログラムを基幹事業とする当団体は、特に強い影響を通年で受け続けた。例年多数の参加者を集めてきた海外ボランティアプログラムが、史上初めてすべて中止となった結果、事業収益が9割減となり財務的に存続が危ぶまれる事態となり、事務局体制の一時的な縮小にも踏み切った。またそれ以上に重大なこととして、これまでのような事業ができない中、どのように当団体が社会で価値を発揮できるのかが問われることとなった。

一方で緊急事態であるときこそ、これまで20年以上の活動で培ってきた「つながり」が生かされることとなった。オンラインを活用して海外や地方ともつながりやすくなり、想いを集めてさまざまな取り組みを試してみることができ、たくさんの支援を得ることができた。次年度以降の事業環境は依然厳しいことが予想されるが、設立25周年となる年への足がかりを得ることができた1年といえる。

2 2020年度の重点項目の振り返り

分類	項目	取り組みの結果
事業 づくり	寄付プロジェクトによる 各国 CFF への緊急支援	プロジェクトチームによる活動で、570人以上から800万を超える寄付をいただき、目標を大きく上回る成果を得ることができた。事業収益がない中で各国に当面の資金を提供することができたほか、厳しい状況でもそれぞれが自立しての運営を目指す機運を高めることができた。
	オンラインプログラムの 新規事業化	夏と春の2回、「at HOME スタディツアー」を開催し、計133名の参加者に対して満足度の高いプログラムを提供するとともに、ノウハウを蓄積することができた。オンラインでも学生リーダーの活躍により参加者同士の関係づくりやCFF独自の場を築けたことは大きな成果である。 一方で実施体制の持続可能性に課題を残したが、3月に実施した高校生向けプログラムでは、シンプルな運営方法を試すことができ、今後へのヒントとなった。
	「新しい生活様式」に対応した 海外プログラムの開発	勉強会には継続的に参加して情報収集を行ったが、新型コロナウイルスの影響が当初予想以上に長引き、海外プログラムの具体的な実施検討までは至らなかった。
	ミャンマー水プロジェクトの ための調査と CFF ミャンマ ー支援	新型コロナの影響でプロジェクトは無期延期となった。その後現地のクーデターによる情勢急変があり、どのように緊急支援ができるかが課題となっている。

基盤づくり	何ができるかの問い直しとチャレンジ	突然訪れた厳しい状況ではあったが、従来の基幹事業ができない危機感の中で、オンラインの活用、教育や地域に関する取り組みなどさまざま試行錯誤をし、可能性を見出すことができた。それを受けて次年度以降は本格的にビジョンを検討していく予定である。
	プロジェクトベースでの学生スタッフの育成	従来のインターン制度よりスタッフ寄りの「学生スタッフ」として4名が事業活動を担った。その他さまざまなプロジェクトベースで学生や若手社会人がスタッフとして活動し、団体に貢献した。 従来のように海外ボランティアプログラムで新しい人材がどんどん入ってくる状況ではないので、人材の循環が今後課題となりそうな状況である。
	地域との連携、地域社会での活動	コロナ禍の前年度4月に世田谷区の現事務所に引越しをしてから、なかなか活動がしづらい状況であったが、地元烏山地域や子育て支援分野などのキーパーソンや協力者とつながることができ、さわやか福祉財団の助成を得て4月から「そだちあいの子育てひろば」を開設することができた。
	相談対応力 ・カウンセリング力の向上	職員2名が研修を受講した。組織として直接的に相談事業をやる方向性は見出していないが、日常の青年への対応の中で活用できる知見や検討の素材を得ることができた。
	オンラインでのCFFインターナショナルの連携強化	これまでと違い、現地に渡航しての交流はできなかったが、オンラインでつながりやすくなったことを活用して、全体会議を2回開催。次年度以降の連携強化の可能性を見出すことができた。
	CFF サポーター（継続寄付）の拡大	目標には届かなかったものの、サポーターの人数は245人から303人に増加（金額にして月額94,000円）。活動や組織の持続性を高めるとともに、支援者の方との絆を築くことができた。
	新ホームページの運用開始	11月から一部のみだが新ページで運用を開始した。実に12年ぶりの全面リニューアルで、見やすさや更新のしやすさが改善。ページ設計当初に想定していた事業環境が激変し、発信すべきコンテンツや発信の対象が変わってきているので、今後調整・改善を図りつつ完成させる。
	多様な働き方の実践（在宅勤務、育休）	社会的な要請もあり、急速にリモートワーク化を進めることができた。今後は職員間・メンバー間でのコミュニケーションの質的な偏りがないように配慮していきたい。 事務局長が育休に入るに際して各種仕組みを整備し、両立支援等助成金を受けることができた。

3 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款上の事業名	事業内容	日時	場所 (形態)	担い手	対象
①-a 海外での開発教育等を活用した青年育成事業	オンラインスタディツアー at HOME スタディツアー in マレーシア	8月 3月	オンライン	事務局職員 (ディレクター) 学生リーダー (パートナーズ)	日本人学生
	オンラインスタディツアー 旅して学ぶSDGs	3月	オンライン	事務局職員 (ディレクター) 高校生リーダー	日本人高校生
①-b 海外での開発教育等を活用した青年育成事業-教育機関との協働事業	高校での出張授業	随時	順天高校 小瀬高校 稲毛高校	事務局職員 活動メンバー	高校の生徒
	教育に関する研究会 (CFF エデュケーションラボ)	12月 以降	オンライン	担当理事 活動メンバー 事務局職員	教育関係者
②「子どもの家」支援等を通じた国際協力事業	フィリピン 「子どもの家」支援	通年	フィリピン	理事・職員 活動メンバー 支援者	児童養護施設 と入所児童
	マレーシア 「子どもの家」支援		マレーシア		
	CFF ミャンマー支援		ミャンマー		CFF ミャンマーと 地域の子ども
③国内での国際協力・青年育成等の啓発・推進事業	プログラムリーダー・パートナーズの育成	通年	オンライン CFF ジャパン 事務局	事務局職員 (ディレクター) 活動メンバー	ボランティア プログラム 過去参加者
	ボランティアプログラム参加者向け 啓発イベント (CFF week) 開催支援	5月	オンライン	活動メンバー 事務局職員	ボランティア プログラム 参加者
	SocialActionChallenge プログラム	通年	オンライン COCO したのは ら	活動メンバー 事務局職員	ボランティア プログラム 過去参加者
	無国籍の子どもについての 啓発イベント	9月	オンライン	事務局職員 活動メンバー ボーダレスジャパン	CFF 関係者 および一般

	キャリアに関する 啓発イベント	12月	オンライン	活動メンバー 事務局職員	ボランティア プログラム 過去参加者
その他法人目的を 達成するために必 要な事業	そだちあいの子育てひろば	4月 より	CFF ジャパン 事務局	事務局職員 活動メンバー	地域の親子

(2) その他の事業：特になし